

## 社会民主主義者の実践活動——2つの任務

周知のように、社会民主主義者の実践活動は、プロレタリアートの階級闘争を指導し、この闘争をその二つの現れ、すなわち、社会主義的な現れ（階級的体制をうちこわして、社会主義社会を組織することを目標とする、反資本家階級の闘争）と民主主義的な現れ（ロシアで政治的自由をたたかいとり、ロシアの政治体制と社会体制を民主化することを目標とする、反絶対主義の闘争）とにおいて組織することを、任務としている。れわれは、**周知のように**、と言った。実際に、ロシア社会民主主義者は、独立の社会革命的流派として出現したそもそものはじめから、自分の活動のこういう任務をいつもきわめて明確に指摘し、プロレタリアートの階級闘争の二重の現れと内容をいつも強調し、自分の社会主義的な任務と民主主義的な任務との切っても切れない結びつき——この結びつきは、彼らの採用した名称に一目瞭然と表現されている——をいつも主張してきた。

……………ロシア社会民主主義者の社会主義的な活動は、科学的社会主義の学説を**宣伝**し、現代の社会＝経済体制、その原則とその発展について、ロシア社会の種々な**階級**について、それらの階級の相互関係について、それらの階級相互の闘争について、この闘争における労働者階級の役割について、没落しつつある階級と発展しつつある階級にたいする、資本主義の過去と未来にたいする労働者階級の関係について、国際的社会民主主義とロシアの労働者階級との歴史的な任務について、正しい理解を労働者のあいだにひろめることにある。宣伝と切っても切れないようにむすびついているのは、労働者のあいだでの**煽動**であって、これは、ロシアの現代の政治的条件と、労働者大衆の発達水準のもとでは、当然に前面にすすみ出ようとしている。労働者のあいだでの煽動とは、社会民主主義者が労働者階級の闘争のすべての自然発生的な現れに、労働日、労働賃金、労働条件、等々をめぐる労働者と資本家のすべての衝突に、参加することである。われわれの任務は、自分の活動を労働者の生活の実際的な、日常の問題と融合させ、労働者をたすけてこれらの問題を理解させ、もっとも重大な濫用行為に労働者の注意をむけ、労働者をたすけて雇主にたいするその要求をいっそう正確に、またいっそう实际的に定式化させ、労働者のうちに自分たちの連帯性の意識を発達させ、プロレタリアートの全世界的軍隊の一部をなす単一の労働者階級としての、ロシアの全労働者の共通の利害と共同の事業にたいする意識を発達させることである。労働者のあいだでサークルを組織し、これらのサークルと社会民主主義者の中央グループとのあいだに正規の、秘密の連絡を組織し、労働者むけの文献を出版して配布し、労働運動のあらゆる中心地からの通信を組織し、煽動リーフレットや檄文を発行して配布し、熟練した煽動者の部隊を養成すること、——ロシア社会民主党の社会主義的活動の現れは、おおまかに言って、以上のようなものである。

われわれの活動は、まず第一に、またもっとも多く都市の工場労働者にむけられる。ロシア社会民主党は、自分の勢力を分散させてはならない。党は、社会民主主義思想をもっとも受け入れやすく、知的にも政治的にももっとも発達しており、人数からいっても、また国内の政治的大中心地に集中されている点からいっても、もっとも重要な、産業プロレタリアートのあいだでの活動に集中しなければならない。だから都市の工場労働者のあいだに強固な革命的組織をつくりだすことは、社会民主党の第一の緊急任務であって、げん

ざいこの任務からそれることは、極度に愚かなことであろう。だが自分の勢力を工場労働者に集中する必要をみとめ、勢力の分散を非難しながらも、われわれは、ロシア社会民主党はロシアのプロレタリアートと労働者階級の他の諸層を無視するものだと言うつもりでは、まったくない。けっしてそんなことはない。ロシアの工場労働者は、その生活条件そのものによって、ごくしばしば、クスターリ——都市や農村で工場の外にちらばっていて、ずっと悪い条件におかれているこの産業プロレタリアート——ともっとも密接な関係に立たないわけにはいかないのである。ロシアの工場労働者はまた農村の住民とも直接に接触しており（工場労働者が農村に家族をもっていることはめずらしくない）、したがって、農村プロレタリアート、すなわち、職業的な雇農や日雇いの幾百万の大衆にも、またみじめなかけらほどの土地にしがみついて、雇役やあらゆる種類の臨時の「手間仕事」、つまり、同じ賃仕事をしている零落農民にも近づかないわけにはいかない。ロシアの社会民主主義者は、自分の勢力をクスターリや農村労働者のなかへ**差しむける**のは適切でないと考えているが、しかし、この層に注意をはらわずに放置するつもりはまったくなく、クスターリや農村労働者の日常生活の問題についても先進的な労働者を啓蒙することにつとめる。こうして、それらの先進的な労働者が、プロレタリアートのよりおくれた諸層と接触するさいに、彼らのなかに階級闘争や社会主義や、一般的にはロシア民衆の、特殊的にはロシア・プロレタリアートの政治的任務の思想をもちこむことのできるようにするであろう。都市の工場労働者のあいだにこれほどたくさんの仕事がかかっているうちは、クスターリや農村労働者のところに煽動者をおくのは実際的でないが、しかし社会主義者の労働者は、多くの機会におもいがけなくこういう層に接触することがあるものであって、そこで彼らは、これらの機会を利用する道を心えていなければならず、ロシアにおける社会民主党の一般的任務を理解しなければならないのである。だから、ロシア社会民主党は見識が狭く、工場労働者だけを見て勤労住民の大衆を無視しようとしてつとめていると非難するものは、ひどい考えちがいをしているのである。それどころか、プロレタリアートの先進的な諸層のあいだでの煽動は、ロシアのプロレタリアートの全体をも目ざめさせる（運動が拡大するにつれて）ためのもっとも正しい唯一の道である。都市の労働者のあいだに社会主義と階級闘争の思想とがひろがれば、もっと小さな、もっと細分された水路へも、かならずこれらの思想をそそぎこむであろう。そのためには、上述の思想が、いっそうよく準備のできた環境のなかにもっと深く根をおろして、ロシアの労働運動とロシア革命とのこの前衛のあいだに、十分にしみとおることが必要である。ロシア社会民主党は、実践上で工場労働者のあいだでの活動に自分の全力をそそぐとともに、社会主義的活動をプロレタリアートの階級闘争の基盤のうえにおこうとするところまできたロシアの革命家たちを支持する用意がある。ただし、このばあい、革命家の他の諸流派とどんな実践上の同盟をむすんでも、それは、理論、綱領、旗印しにおける妥協や譲歩をもたらすことはできないし、またもたらしてはならないということを、われわれはすこしもかくさない。革命運動の旗印しとなりうる革命理論は、現在では科学的社会主義と階級闘争との学説だけであることを確信するロシアの社会民主主義者は、全力をつくしてこの学説をひろめ、これを誤った解釈からまもり、まだ年若いロシアの労働運動をあまり明確でない諸学説とむすびつけようとするあらゆる試みに反対するであろう。ロシアにおける**社会主義者**はすべて**社会民主主義者**となるべきだということは、理論的な考察が論証し、また社会民主主義

者の実践活動が実証している。

社会民主主義者の民主主義的任務と、民主主義的活動にうつろう。もう一度くりかえしておくが、この活動は、社会主義的活動と切っても切れないようにむすびついている。社会民主主義者は労働者のあいだで宣伝するにあたって、政治的な問題を回避することはできないし、それを回避しようとしたり、それどころか、おしのけようとするあらゆる試みを、ひどい誤謬であり、世界社会民主主義の基本的命題からの背反だと考える。ロシアの社会民主主義者は、科学的社会主義の宣伝とならんで、労働者大衆のなかで民主主義思想をも宣伝することを、その任務としている。彼らは、活動のいっさいの現れについて見た絶対主義について、絶対主義の階級的内容について、これを転覆する必要について、政治的自由を達成し、ロシアの政治体制と社会体制を民主化しないかぎり労働者の事業のための闘争の成功は不可能だということについて、理解をひろめるようにつとめている。社会民主主義者は、当面の**経済的要求**を基礎として労働者のあいだで**煽動する**とともに、それに、労働者階級の当面の政治的な必要や困苦や要求を基盤とする煽動——どのストライキのさいにも、労働者と資本家のどの衝突のさいにも現れてくる警察の抑圧に反対する煽動、総じてロシア市民としての、特殊的にはもっとも抑圧された、もっとも無権利な階級としての、労働者の権利の制限に反対する煽動、労働者にちよくせつ接触があって、労働者階級に自己の政治的奴隷状態をはっきりと見せつける、絶対主義の有力な代表者や下僕のひとりひとりに反対する煽動——を切っても切れないようにむすびつける。経済の分野で経済的煽動のために利用できないような労働者の生活上の問題は一つもないが、それとまったく同じように、政治の分野でも政治的煽動の対象にならないような問題はない。これら二つの種類の煽動は、社会民主主義者の活動のなかでは、一つのメダルの両面のように切っても切れないようにむすびつけられている。経済的煽動も政治的煽動もプロレタリアートの階級的自覚の発達のためには同様に必要であり、また、あらゆる階級闘争は政治闘争であるから、経済的煽動も政治的煽動もロシアの労働者の階級闘争の指針として同様に必要である。どちらの煽動も、労働者の意識をめざめさせ、彼らを組織し、訓練し、彼らを連帯行動や社会民主主義の理想のための闘争にむかって教育することによって、労働者に当面の問題、当面の必要によって自分の力をためす可能性をあたえ、また労働者に、その敵から部分的な譲歩をかちとって、自分の経済状態を改善し、資本をして組織された労働者の勢力を考慮にいれることをよぎなくさせ、政府をして労働者の権利を拡張し、労働者の要求に耳をかたむけることをよぎなくさせ、可能性をあたえるであろう。また政府に強固な社会民主主義組織に指導される、敵意ある労働者大衆にたいする恐れをつねにいだかせておく。

われわれは、**社会主義的な宣伝および煽動**と**民主主義的な宣伝および煽動**とがきりはなせないように密接であること、革命的活動はこの双方の領域で完全に平行して行われることを述べた。しかし、活動と闘争のこの二つの種類のあいだには、大きな相違もある。この相違は、経済闘争のばあいにはプロレタリアートはまったくの単身で、貴族地主をもブルジョアジーをも自分の敵としており、ただ小ブルジョアジー中のプロレタリアートに心をひかれる分子の援助をうけるにすぎない（それもけっしていつもそうだというわけではない）という点にある。ところが民主主義的闘争、**政治闘争**では、ロシアの労働者階級は単身ではない。すべての政治上の反政府的な分子、住民層、階級は、絶対主義に敵意をい

だき、それにたいしてあれこれの形で闘争を行っているかぎり、労働者階級と肩をならべて立っている。ここでは、ブルジョアジー、または教養のある諸階級、または小ブルジョアジー、または絶対主義に迫害されている諸民族や宗教や異宗派、等々のうちの反政府分子も、プロレタリアートと**ならんで**立っている。当然につきのような問題がおこってくる。労働者階級は、これらの分子にたいしてどういう関係に立つべきであるか？ つぎに、労働者階級は、絶対主義にたいする共同闘争のために彼らと提携すべきではないだろうか？すべての社会民主主義者が、ロシアでは政治革命が社会主義革命に先行しなければならないことを承認しているではないか。絶対主義にたいする闘争のためにすべての政治上の反政府分子と提携して、しばらくのあいだ社会主義をわきにのけておくべきではないだろうか？絶対主義にたいする闘争を強めるために、ぜひともそうすべきではないだろうか？

この二つの問題を検討しよう。

絶対主義にたいする戦士としての労働者階級と、他のすべての政治上の反政府的な社会階級やグループとの関係についていえば、この関係は、有名な『共産党宣言』のうちに述べられている社会民主主義の基本原則によって、じゅうぶん正確に規定されている〔第二巻、530—531ページ〕。社会民主主義者は、反動的な社会階級に反対して進歩的な社会階級を支持し、特権的な身分制的土地所有の代表者や官僚に反対してブルジョアジーを支持し、小ブルジョアジーの反動的熱望に反対して大ブルジョアジーを支持する。この支持は、非社会民主主義的な綱領や原則とのどんな妥協をも前提せず、必要ともしない。それは**当面の敵**にたいする同盟者への支持である。このばあい社会民主主義者は、共同の敵の没落をはやめるためにこの支持をあたえるが、これらの一時的な同盟者たちから**自分のためには**なにも期待しないし、また彼らになにもものをも譲歩しない。社会民主主義者は、現代の社会体制に反対するあらゆる革命運動を支持し、同権のために闘争するあらゆる被抑圧民族、迫害される宗教、侮辱されている身分、等々を支持する。

すべての政治上の反政府分子にたいする**支持**は、社会民主主義者の宣伝では、つぎのことに表現されるであろう。

つまり、社会民主主義者は、労働者の事業にたいして絶対主義が敵意をいだいていることを証明するとともに、あれこれの社会的グループにたいして絶対主義が敵意をいだいていることをもしめし、**あれこれの問題、あれこれの任務**、等々における労働者階級とこれらのグループとの連帯性をしめすであろう。煽動では、この支持はつぎのことに表現されるであろう。つまり、社会民主主義者は絶対主義の警察的抑圧のあらゆる現れを利用して、この抑圧が、どのように**一般に**すべてのロシア市民に、特殊的にはことさらに抑圧されている身分や民族や宗教や異宗派、等々の代表者にくわえられているか、どのようにこの抑圧がとくに**労働者階級**のうえに反映しているかを、労働者にしめすであろう。最後に、実践のうえでは、この支持はロシアの社会民主主義者は、あれこれの部分的目標を達成するために他の諸流派の革命家と同盟をむすぶ用意がある、ということに表現される。そしてこの用意は、実際に一度ならず証明されたのである。

ここでわれわれは、第二の問題にも近づくのである。社会民主主義者は、労働者とあれこれの反政府的なグループとの連帯性を指摘するとともに、つねに労働者を他から区別し、つねにこの連帯性の一時的で条件的な性格を説明し、きょうの同盟者にたいしてあすは反

対するかもしれないプロレタリアートの階級的独自性を、つねに力説するであろう。われわれにむかってこう言うものがあるかもしれない。「そういう指摘は、げんざい政治的自由のために戦っているすべての戦士を**弱める**ことになる」と。そういう指摘は、政治的自由のために戦うすべての戦士を強めるだろう、とわれわれはこたえよう。強いのは、一定の**階級の意識された**現実の利害に立脚する戦士だけである。したがって、現代社会ですでに支配的な役割をはたしているこれらの階級利害をあいまいにすることはすべて、戦士を弱めるだけであろう。これが第一。第二に、絶対主義にたいする闘争で労働者階級が自分を他から区別しなければならないのは、労働者階級**だけ**が絶対主義の最後まで一貫した無条件的な敵であり、労働者階級と絶対主義とのあいだに**だけ**は妥協はありえないし、民主主義は、労働者階級のうちに**だけ**、留保条件なしの、ためらうことのない、うしろをふりかえることのない支持者を見いだすことができるからである。その他のすべての階級、グループ、住民層にあつては、絶対主義にたいする敵意は無条件的ではなく、彼らの民主主義はつねにうしろをふりかえる。ブルジョアジーは、絶対主義によって工業や社会の発展が阻止されていることを意識しないわけにはいかないが、しかし彼らは政治体制と社会体制の完全な民主化をおそれ、いつなんどきでもプロレタリアートに反対して絶対主義との同盟をむすびかねない。小ブルジョアジーは、その本性そのものからして二重人格的で、一方ではプロレタリアートと民主主義に心をひかれながら、他方では、反動階級に心をひかれ、歴史を阻止しようと試みるのであって、絶対主義の実験や媚態（たとえアレクサンドル三世の「人民の政治」のような形のものであろうとも）にのせられかねず、**小所有者**としての自分の地位を強固にする**ために**、プロレタリアートに反対して支配階級と同盟をむすびかねないのである。教養ある人々、一般に「インテリゲンツィア」は、思想と知識を迫害する絶対主義の野蛮な警察的抑圧にたいして反抗せざるをえないが、このインテリゲンツィアの物質的利害は、彼らを絶対主義とブルジョアジーとにしぼりつけ、彼らを一貫性を欠くものにし、妥協をむすばせ、その反政府的で革命的な情熱を、官庁の俸給やら、利潤や配当金への割りこみやらと引きかえに売りわたさせるのである。被抑圧民族や、迫害されている宗派のなかの民主主義的分子についていえば、だれもが知っており、また見ているように住民中のこれらの部類の内部における階級矛盾は、絶対主義に反対し、民主的制度に味方する点での、そういう部類のなかのすべての階級の連帯性よりも、はるかに深く、また強い。最後まで一貫した民主主義者、どんな譲歩にも妥協にも応じる恐れのない、絶対主義の決定的な敵となることができ、しかもその階級的地位によってそうならざるをえないのは、ひとりプロレタリアートだけである。政治的自由のため、民主的制度のための先進闘士となりうるものは、ひとりプロレタリアートだけである。というのは、第一に、上級権力に近づく手づるもなければ、役人に近づく手づるさえなく、世論にたいする影響力ももたないこの階級の地位には、どういう矯正手段もないので、政治的抑圧はもっとも強くプロレタリアートに反映するからである。第二に、プロレタリアートだけが政治体制と社会体制の民主化を**最後まで**遂行する能力をもっている。というのは、そういう民主化は、この体制を労働者の手にゆだねるだろうからである。まさにこのために、労働者階級の民主主義的活動と他の階級やグループの民主主義とを**融合**させることは、民主主義運動の力を**弱め**、政治闘争を**弱め**、それを断固たる性質のおとるもの、徹底性のおとるもの、より多く妥協しかねないものにするようになる。これに反して、民主的制度のた

めの先進闘士としての労働者階級を他から区別することは、民主主義運動を強め、政治的自由のための闘争を強めるであろう。なぜなら、労働者階級は、他のすべての民主主義的な、政治上の反政府的な分子を前方へ駆り立てるであろうし、自由主義者を政治的急進主義者のほうへ駆りたて、急進主義者を、現代社会の政治体制と社会体制全体との決定的絶縁へ駆りたてるだろうからである。さきにわれわれは、ロシアにおける**社会主義者**はすべて**社会民主主義者**となるべきだ、と言った。われわれはいま付けくおえて言う、ロシアにおける真正の、一貫した**民主主義者**はすべて**社会民主主義者**となるべきだ、と。……

ロシアの社会民主党のまえには、ようやく着手されたか、されないかの巨大な活動分野がまだひかえている。ロシアの労働者階級の覚醒、知識や団結や、社会主義や、自分の搾取者と抑圧者にたいする闘争への労働者階級の自然発生的な志望は、日ごとにますますはっきりと、広く現れつつある。ロシアの資本主義がさいきん遂げつつある巨大な進歩は、労働運動がたえず幅ひろく、また深く成長していくことを保障している。げんざい、われわれはあきらかに、産業が「繁栄」し、商業が活発に行われ、工場が全力をあげて操業し、新しい工場、新しい企業、株式会社、鉄道建設、等々が雨後の竹の子のように数かぎりなく発生する、資本主義の周期の一時期に際会している。予言者でなくとも、産業のこの「繁栄」につづくにちがいない破局（多かれすくなかれ急激な）の不可避免性を予言することができる。このような破局は、多数の小経営者を零落させ、労働者大衆を失業者の列になげこみ、こうして、すでにずっとまえからすべての意識的な労働者、ものを考える労働者のまえに提起されていた社会主義と民主主義との諸問題を、鋭い形で全労働者大衆のまえに提起するであろう。この敗局がいよいよおそってくるとき、ロシアのプロレタリアートが、いっそうよく自覚し、いっそうよく団結し、ロシアの労働者階級の任務を理解し、こんにちばくだいな利潤をあげながらその損失を労働者に転嫁しようとしてつねにつとめている資本家階級に反撃をくわえる能力をもち、ロシアの労働者とロシアの全人民の手足をしばっている警察的絶対主義にたいして、ロシア民主主義の先頭に立って断固たる闘争をはじめる能力をもつものとなっているように、ロシアの社会民主主義者は配慮しなければならない。

だから、仕事にとりかかりたまえ、同志諸君！貴重な時間を失うまい！ロシアの社会民主主義者のまえには、めざめつつあるプロレタリアートの要請を満足させ、労働運動を組織し、革命的グループとそれらの相互の結合とを強化し、労働者に宣伝・煽動文書を供給し、ロシアの全土に散在している労働者のサークルや、社会民主主義的グループを単一の社会民主労働党に統合するための多くの仕事がひかえているのだ！

第二卷 ロシア社会民主主義者の任務 P323~342 1897 年末に流刑地で執筆

## コメント

### 〈概要〉

社会民主党の第一の緊急任務は、科学的社会主義の学説を**宣伝**し、国際的社会民主主義とロシアの労働者階級との歴史的な任務について、正しい理解を労働者のあいだにひろめること、**煽動のために**社会民主主義者は労働者階級の闘争のすべての自然発生的な現れに参加し、自分の活動を労働者の生活の実際的な、日常の問題と融合させ、労働者をたすけてこれらの問題を理解させ、全労働者の共通の利害と共同の事業にたいする意識を発展さ

せることである。そのために**労働者を組織し**、熟練した煽動者の部隊を養成することである。そのためには、**自分の勢力を分散させてはならない**。党は、社会民主主義思想をもっとも受け入れやすく、知的にも政治的にももっとも発達しており、人数からいっても、また国内の政治的大中心地に集中されている点からいっても、もっとも重要な、**産業プロレタリアートのあいだでの活動に集中しなければならない**。プロレタリアートの先進的な諸層のあいだでの煽動は、ロシアのプロレタリアートの全体をも目ざめさせるためのもっとも正しい唯一の道である。都市の労働者のあいだに社会主義と階級闘争の思想とがひろがれば、もっと小さな、もっと細分された水路へも、かならずこれらの思想はそそぎこまれる。これが社会民主党の第一の緊急任務である。

……………（学び、宣伝し、組織する——W. リープクネヒト）……………

社会民主党の第二の緊急任務は、科学的社会主義の宣伝とならんで、労働者大衆のなかで**民主主義思想をも宣伝すること**である。社会民主主義者は、当面の**経済的要求**を基礎として労働者のあいだで**煽動する**とともに、それに一つのメダルの両面のように切っても切れないようにむすびつけられている労働者階級の当面の**政治的な必要**や**困苦**や**要求**を基盤とする**煽動**を完全に平行して行わなければならない。

では、**民主主義的闘争を進めるに当たって労働者階級は、すべての政治上の反政府分子にたいしてどういう関係に立つべきか？**

社会民主主義者は、反動的な社会階級に反対して進歩的な社会階級を支持する。共同の敵の没落をはやめるための**当面の敵**にたいする同盟者への**支持**である。すべての政治上の反政府分子にたいし、社会民主主義者は**宣伝・煽動**で、**あれこれの問題**、**あれこれの任務**、等々における労働者階級とこれらのグループとの連帯性を示し、**あれこれの部分的目標**を達成するために他の諸流派の革命家と同盟をむすぶ用意かあることを示さなければならない。

そのために、**労働者階級は、しばらくのあいだ社会主義をわきにのけておくべきなのだろうか？**

社会民主主義者は、労働者とあれこれの反政府的なグループとの連帯性を指摘するとともに、つねに**労働者を他から区別し**、つねにこの連帯性の一時的で条件的な性格を説明し、きょうの同盟者にたいしてあすは反対するかもしれないプロレタリアートの階級的独自性を、つねに力説しなければならない。その理由の第一は、現代社会ですでに支配的な役割をはたしているこれらの階級利害をあいまいにすることはすべて、労働者階級の力を弱めるだけであり、一定の**階級の意識された現実の利害**に立脚する戦士としての労働者階級の団結こそその力を強めるものだからである。労働者を他から区別する第二の理由は、最後まで一貫した民主主義者、どんな譲歩にも妥協にも応じる恐れのない、しかもその階級的地位によってそうならざるをえないのは、ひとりプロレタリアートだけだからである。政治的自由のための、民主的制度のための先進闘士となりうるものは、ひとりプロレタリアートだけだからである。プロレタリアートだけが政治体制と社会体制の民主化を**最後まで**遂行する能力をもっているからである。

だから、ロシアにおける真正の、一貫した**民主主義者**はすべて**社会民主主義者**となるべきであり、ロシアにおける**社会主義者**はすべて**社会民主主義者**となるべきである。

そのために、**学び、宣伝し、組織しよう！**

〈ポイント〉

- 社会民主党（共産党）には科学的社会主義思想をひろめる任務と民主主義思想をひろめる任務がある。
- 科学的社会主義思想をひろめるためには産業プロレタリアートのあいだでの活動に自分の勢力を集中して、学び、宣伝し、組織しなければならない。
- 経済的煽動と政治的煽動とは、社会民主主義者の活動のなかでは、一つのメダルの両面のように切っても切れないようにむすびつけられており、プロレタリアートの階級的自覚の発達のためには同じように必要である。どちらの煽動も、労働者を組織し、訓練し、教育することによって、自分の経済状態を改善し、労働者の権利を拡大する可能性をあたえる。
- 民主主義思想をひろめることと科学的社会主義思想をひろめることとは切りはなすことができず、平行して行われるが、両者には大きな違いもある。
- 社会民主主義者は社会を進歩させる一つ一つの問題に、その目標を達成するためにあらゆる勢力と同盟をむすぶ用意があるし、それを表明しなければならない。
- しかし、社会民主主義者は、他の勢力と同盟する場合でも、労働者を他から区別して、労働者階級の歴史的役割を常に明らかにして、労働者の自覚を高めるように闘わなければならない。
- なぜならば、労働者がその歴史的使命をしっかりと自覚してこそ大きな力を発揮することができ、労働者だけが最後まで民主主義を徹底することができるからである。
- だから、学び、宣伝し、組織する仕事にとりかかろう。